

2023年6月25日 礼拝説教要旨

ハイデルベルク信仰問答講解説教Ⅱ 3 「望みは神にある」

創世記1：26～27、ヨハネ3：1～6

今日の信仰問答もキリスト教教理において重要な事柄を含んでいます。問6を見てみましょう。

問6 それでは、神は人をそのように邪悪で倒錯したものに創造なさったのですか。

答 いいえ。むしろ神は人を良いものに、また御自分にかたどって、すなわちまことの義と聖において創造なさいました。それは人が自らの造り主なる神をただしく知り、心から愛し、永遠の幸いのうちを神と共に生き、そうして神をほめ歌い讃美するためでした。

問6は、直前の問5で神さまの御言葉、律法が要求している神さまを愛すること、隣人を愛することができますかと問うて「できません」と答え、「わたしは神と自分の隣人を憎む方へと生まれつき心が傾いているからです」と答えるところを受けています。

これは罪の人間の悲惨を示していますが、そこでわたしたちの心に芽生えてくる感情があります。それは、それなら仕方ないというあきらめ、開き直りか、もしくはそのように造った神さまが悪いという責任転嫁です。人は誰も間違いを犯したり、失敗するものですが、その時に下手に聖書をかじっているとわたしたちは「どうせ罪人なんだから」と考えてしまうことがあります。さらに生まれつき神さまと隣人を憎む傾向があるとされたら、これは手に負えない。どんなに頑張っても、正しく生きても、所詮、罪人なら仕方ないではないかと考えて卑屈になる、投げやりになってしまうということがあります。

またそのような間違いを犯すように人間を造られた神さまが悪いと考える、いわゆる責任転嫁があります。わたしたちは親が悪い、環境が悪いと、誰かのせいにして、言い訳をして、その場をやり過ごすという傾向があります。この責任転嫁は創世記のアダムとエバの話でも出てくるでしょう。神さまとの約束を破って木の実を食べてしまう。神さまに追求されたアダムは、女が与えたから食べたと言い、エバは蛇が騙したから食べたと言う。そのように罪を誰かのせいにする。これがまさに「邪悪で倒錯したもの」なのです。「倒錯した」という部分は、竹森先生は「逆さま」と訳しています。このようにひねくれて逆さまになってしまう。神さまはどのように人間をお造りになられたのでしょうか。

そうではありません。「むしろ神は人を良いものに、また御自分にかたどって、すなわち、まことの義と聖において創造なさいました」と告白します。ここに聖書の重要な人間理解「神のかたち」(イマゴ・デイ)の教理があります。今日は創世記の人間の創造を読みました。「神は御自分にかたどって人を創造された」(1：27)とあります。それだけ特別なもの、かけがえのない存在として人間は造られている。ここに人間の価値、尊厳の根拠があります。決していい加減に造られたのではない。「どうせ罪人」と言って卑屈になる必要はないのです。

先日、ルーテル学院大学の礼拝がありました。学生たちに何を話そうかと考えていた時に、ちょうど将棋の藤井聡太さんが名人のタイトルを取ったニュースがありました。藤井聡太さんの将棋はAI(人工知能)を超えられます。AIがどんなに優れていると言っても、それは所詮人間が作り出したものに過ぎません。もちろん世の中はそれで便利にはなるかもしれませんが。でもその域を脱することはしないのです。人間の方がはるかに優れています。何より人間は神さまのイメージに造られています。新しい何かを創造する、造り出す小さなクリエイターなので

す。科学も文学も芸術も人間が生み出してきました。特に若い世代、学生時代は、何事にも縛られずに、自由でユニークな新しい発想ができる。だから AI に頼る必要はない。AI にレポートを書かせたり、人生相談をしてどうするのでしょうか。もっと人間を信頼していい。

人間が素晴らしい存在であることを忘れ、卑屈になったり、ひねくれたり、責任転嫁をしたり、つまらない人間になってしまうのは、他でもないわたしたちに問題があります。神さまのせいでも親のせいでもない。それが続く問答です。

問7 それでは、人のこのような腐敗した性質は何に由来するのですか。

答 わたしたちの始祖アダムとエバの、樂園における墮落と不従順からです。それで、わたしたちの本性はこのように毒され、わたしたちは皆、罪のうちにはらまれて生まれてくるのです。

創世記の墮罪の物語にあるように神さまとの約束を破る。そこに「不従順」があります。神さまと共に生き、神さまをほめ歌うのではなく、神さまに背を向けて自分勝手に生きてしまう。最初の人間がこれを持ってしまふとそのあとに続く者もそうなるのです。ある人は川にたとえています。川の上流が汚染されれば、その汚染は下流に影響を及ぼすのと同じように、最初の人間が罪に汚染されたなら、それに続く世代にもそれが及ぶのです。アダムとエバの罪はその子カインとアベルにも受け継がれ兄が弟を殺してしまう。神さまが造られた命を人間が奪い取る。まさに倒錯、逆さまなことを人間はしてしまいます。

これに追い打ちをかけるように次の問答が続きます。

問8 それでは、どのような善に対しても全く無能であらゆる悪に傾いているというほどに、わたしたちは墮落しているのですか。

答 そうです。わたしたちが神の霊によって再生されないかぎり、

「どのような善に対しても全く無能であらゆる悪に傾いている」これをキリスト教の教理では「全人的墮落」と言います。この罪の汚染を人間はどうすることもできない。自分の力でもとの良い状態、神さまのかたちに戻ることはできない。その少しの可能性も人間には残っていないのです。それなら絶望ではないか。そうではない。まだ希望がある。わたしたちを造られた神さまこそ唯一の望みです。

今日はヨハネ福音書のニコデモの話を読みました。「人は新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない」と主は言われます。人間は新しく生まれることができる。それがキリストの救いに他なりません。「肉から生まれたものは肉である。霊から生まれたものは霊である」(ヨハネ3:6)とあります。聖霊によってもう一度新しく生まれる。天地創造の時に、命の息を吹き入れられたように、聖霊がわたしたちをキリストへと導き、キリストの全ての恵みにあずかせてくださる。罪を赦し、新しい命によみがえらせてくださる。そこにわたしたちの再生の可能性がります。

天の父よ。あなたに良いものとして造られたわたしたちですが、そこから身勝手に離れ、その神さまのかたちを壊してしまいました。そこにわたしたちのあらゆる悲惨があります。けれどもあなたは御子を与えて、わたしたちをもう一度神さまの霊によって新しく造りかえてくださいます。そこに望みがあることに気づかせてください。神さまに祝福された人間として新しく歩み出すことができますように。主の御名によって祈ります。アーメン。